

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)														
		福祉社会科学概論(福祉社会科学概論)																			
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員															
必修	2	1	福祉社会科学 研究科	前期	月6	氏名 研究科専任教員全員(主担当 藤村) E-mail masa-f@oita-u.ac.jp 内線 7703															
授業の概要	本講義では、本研究科の専任教員が順に登場し、各教員の専門分野に関する講義を行います。本講義の目的は、福祉社会科学の視点と方法を幅広く学ぶとともに、「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の担当教員を選ぶ際の参考にしていただくことにあります。																				
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10				
目標1 福祉社会科学の視点と方法について説明できる。																					
目標2 福祉社会科学の各分野の研究について説明できる。																					
目標3 各自の修士論文のための研究に関係づけることができる。																					
目標4																					
目標5																					
目標6																					
目標7																					
目標8																					
目標9																					
目標10																					
授業の内容																					
1 オリエンテーション：本講義の担当教員の紹介と趣旨説明																					
2 廣野俊輔「障害者ソーシャルワーク」																					
3 上白木悦子「医療ソーシャルワーク」																					
4 橋本美枝子「精神保健ソーシャルワーク」																					
5 相澤 仁「児童・家庭ソーシャルワーク」																					
6 高島拓哉「福祉公共ガバナンス」																					
7 川村岳人「地域福祉政策」																					
8 久木元美琴「福祉サービスシステム」																					
9 藤村賢訓「福祉法制・権利擁護」																					
10 松本由美「社会保障政策」																					
11 三好禎之「福祉政策特論」																					
12 まとめ：受講生によるディスカッション等																					
13 まとめ：受講生によるディスカッション等																					
14 演習担当教員選択のための相談																					
15 演習担当教員選択のための相談																					
ラーニング ポイント チェック シート グループ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造					まとめ：受講生によるディスカッションでは、福祉社会科学概論で学んだことについて各受講生が報告し、全専任教員および受講生でディスカッションを行う。					工夫 その他										
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修 事後 学修	授業中に紹介する参考書や勉強・研究方法等をふまえて自主的に学習してください。																			
教科書	特になし																				
参考書	各回の担当教員が適宜紹介します。																				
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10									
	各講義におけるディスカッションの参加姿勢	30%																			
	まとめでの発表内容	70%																			
注意事項	福祉社会科学演習、福祉社会科学演習、福祉社会科学演習 は福祉社会科学概論履修後に履修可能となります(福祉社会科学履修規程参照)																				
備考	遅刻欠席等の連絡は、該当する日の担当教員に連絡すること。それ以外は教育支援課担当者に連絡すること。																				
リンク	URL																				

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名) 福祉調査研究方法論(福祉調査研究方法論)					区分・【新主題】/(分野)													
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
必修	2	1	福祉社会科学 研究科	前期	木6	氏名 藤村賢訓(主担当)・廣野俊輔・高島拓哉・三好禎之・上白木悦子 E-mail masa-f@oita-u.ac.jp 内線 7703														
授業の概要	研究課題に取り組む上で、必要な基本的知識および研究に必要な技能を身につけることを通して、研究課題に応じた適切な手順および方法を選択していく研究力を涵養することが本授業のねらいである。 そのために、研究の意義、研究論文を作成するための基本的な作法、倫理的問題について学ぶ。その上で、研究の設定と手順、研究資料の収集方法および分析といった研究の過程を学ぶとともに、文献研究や量的・質的調査の方法について学ぶ。																			
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)														
目標1	「研究とは何か」について説明できる。					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
目標2	研究の設計と手順について説明できる。																			
目標3	具体的な調査研究の方法と実際について説明できる。																			
目標4	研究手法に基づいたレポートを作成することができる。																			
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1	研究するとはどういうことか(廣野)																			
2	研究の基本的スキルを身につける:図書館利用方法(廣野)																			
3	研究の基本的スキルを身につける:先行研究レビューの進め方(高島)																			
4	研究の基本的スキルを身につける:文献検索・整理、文献記載の方法(高島)																			
5	具体的な調査研究方法を学ぶ:文献研究(その1)(廣野)																			
6	具体的な調査研究方法を学ぶ:文献研究(その2)(廣野)																			
7	具体的な調査研究方法を学ぶ:量的調査(その1)(三好)																			
8	具体的な調査研究方法を学ぶ:量的調査(その2)(三好)																			
9	具体的な調査研究方法を学ぶ:質的調査(その1)(上白木)																			
10	具体的な調査研究方法を学ぶ:質的調査(その2)(上白木)																			
11	研究倫理とその手続きを学ぶ(藤村)																			
12	研究経過報告会(今年度修了予定者の報告)参加																			
13	研究経過報告会(今年度修了予定者の報告)参加																			
14	院生による報告・討論																			
15	院生による報告・討論																			
ラ ア イ ク ニ テ ン イ グ エ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造		現時点の研究の関心、内容、今後の研究の方向性について、「院生による報告・討論」で報告し、全専任教員と受講生で討論する。また、15回の講義で学んだ研究手法に基づいて、1万字程度のレポートを作成する。										工 夫 其 他 の							
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	関心がある研究テーマの1万字のレポート作成を通して、各講義の内容を活用できるようになってください。																		
教科書	特になし																			
参考書	適宜、授業内容に関する図書・論文等を紹介する。																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
	院生による報告の内容	10%																		
	講義におけるディスカッションへの参加態度	20%																		
	最終レポート	70%																		
注意事項	院生による報告・討論および最終レポートについては、新入生ガイダンスのときに資料を配付し説明する。																			
備考	講義を遅刻・欠席する場合には、当日の担当教員に直接連絡をすること。																			
リンク	URL																			

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名) 福祉社会科学課題研究(福祉社会科学課題研究)					区分・【新主題】/(分野)													
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
必修	2	1	福祉社会科学 研究科	後期	火6	氏名 上白木悦子・三好禎之 E-mail 内線 7540・7696														
授業の概要	福祉課題や福祉ニーズに対処するために、政策と実践の両面から適切に分析できる能力と、総合的な判断力と課題解決能力を得ることを目的とする。また、事例を通してその領域の問題点を見だし、問題を解決するための仮説をたて文献等を調べることで、修士論文の研究につながる考え方を学ぶ。																			
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)														
目標1	1つの福祉課題をミクロ、メゾ、マクロで捉えることができる。					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
目標2	1つの福祉課題を政策と実践の両面から分析することができる。																			
目標3	自ら問題点を見いだした問題点を解決するための資料を収集し、自分の考えをまとめて伝えることができる。																			
目標4																				
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1	オリエンテーション																			
2	PBLの進め方について																			
3	事例提示・グループ討議(課題抽出)																			
4	事例提示・グループ討議(課題抽出)																			
5	グループ討議(ミクロ)																			
6	グループ討議(ミクロ)																			
7	講義(ミクロ)																			
8	グループ討議(メゾ)																			
9	グループ討議(メゾ)																			
10	講義(メゾ)																			
11	グループ討議(マクロ)																			
12	グループ討議(マクロ)																			
13	講義(マクロ)																			
14	総括(発表)																			
15	総括(発表)																			
ラ ア イ ク ニ テ ン イ グ レ ー プ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造		本講義は、課題に対して受講生自らが問題点を見だし、討議を重ねて解決していくPBL(Problem based learning)方式にて行う。										工 夫 そ の 他 の							
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	課題抽出のときに、学習するべき課題を受講生で決定する。その学習課題について各自が調べグループ討議に備える。																		
	事後学修																			
教科書	特に使用しない。																			
参考書	適宜紹介する。																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
	学習課題を的確に把握し、適切な情報源から学習を行った。	20%																		
	議論に積極的に参加し、他の受講生の意見に注目し敬意を払って活動した。	20%																		
	情報を批判的に検討し、データを批判的に統合・分析した。	20%																		
	建設的なフィードバックを行い、グループの学習を促進した。	20%																		
	福祉課題をマクロ・メゾ・ミクロで捉えることができた	20%																		
注意事項	基本的には講義は6限、グループ討議は6・7限に実施します。具体的な日程および講義の担当者は、オリエンテーションで説明します。																			
備考																				
リンク																				
	URL																			

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名) 社会福祉の基礎(入門科目)(社会福祉の基礎(入門科目))					区分・【新主題】/(分野)													
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
選択必修	2	1年次に履修することが望ましい	福祉社会科学 研究科	前期	水6	氏名 廣野俊輔 E-mail hirono-shunsuke@oita-u.ac.jp 内線 7550														
授業の概要	学部で社会福祉学を学んだ経験が経験がない院生が、スムーズに研究するために必要な知識を身につけること。																			
具体的な到達目標											DP等の対応(別表参照)									
目標1 社会福祉全般について基礎的な知識を得ること											1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標2 各分野の制度や実践において何が課題になっているかを理解すること																				
目標3 自分の研究テーマが社会福祉全体の中でどのような位置づけをもつか理解すること。																				
目標4																				
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1 イントロダクション																				
2 社会福祉の意味と定義																				
3 社会福祉の歴史的経緯																				
4 社会福祉の分野論 (貧困・低所得)																				
5 社会福祉の分野論 (高齢者福祉)																				
6 社会福祉の分野論 (身体障害者福祉)																				
7 社会福祉の分野論 (知的障害者福祉)																				
8 社会福祉の分野論 (精神保健福祉)																				
9 社会福祉の分野論 (子ども家庭福祉)																				
10 社会福祉の分野論 (司法福祉)																				
11 地域福祉の重要性																				
12 ソーシャルワークと社会福祉																				
13 社会福祉と関係する政策																				
14 国際比較からみた日本の社会福祉																				
15 講義のまとめ																				
ラーニング ポイント チェック シート グループ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造		講義は単に教員が話すだけでなく、ディスカッションを取り入れたものとする。 また、各学生に発表をしてもらいながら講義をすすめる。					工夫 その 他の	関連する論文を配布する。											
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修																			
	事後 学修																			
教科書	厚生統計協会『国民の福祉と介護の動向 2014/2015』厚生統計協会。																			
参考書																				
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10								
	講義内での発表	80%																		
	講義における発言	20%																		
注意事項																				
備考																				
リンク	URL																			

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)																		
		社会政策特論(社会政策特論)					マクロ領域																		
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																			
選択必修	2	1,2	福祉社会科学 研究科	前期	火6	氏名 阿部 誠																			
						E-mail mabe@oita-u.ac.jp 内線 7682																			
授業の概要	日本では社会保障・福祉政策の整備が進んだが、今日「安定した生活」が実現したとはいえない。その背景には、この間に進んだ社会経済の構造変化が新たなリスクを生み出していることがある。こうしたなかで、「社会への投資」という考え方が広がってきた。これは、個人の自由を保障するために人々のつながりを構築する必要があるという考え方を基礎にして、個人が相互に信頼できる社会的基盤を整備する諸政策を「社会への投資」ととらえるものであり、福祉を投資とする見方ともいえる。この授業では、「社会への投資」という考え方や各国の先進事例の検討を通じて、日本の「社会的投資戦略」を考える。																								
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 現代福祉国家の課題と関連させて「社会への投資」という考え方を理解する。																									
目標2 「社会への投資」の先行事例について理解を深める。																									
目標3 いま、なぜ「社会への投資」が重要なのかを考える。																									
目標4 「社会への投資」という観点から日本の政策課題を考える。																									
目標5																									
目標6																									
目標7																									
目標8																									
目標9																									
目標10																									
授業の内容																									
1 授業のテーマと進め方 ガイダンス																									
2 今日の社会政策論の課題																									
3 現代福祉国家の到達点																									
4 「社会的投資戦略」の考え方																									
5 自律・参加・コミュニティ オランダの事例																									
6 フランスの社会的投資と家族政策・最低所得保障 フランスの事例																									
7 子どもの貧困対策にみるイギリスの社会的投資戦略 英国の事例																									
8 韓国の社会的投資戦略の経験と教訓 韓国の事例																									
9 日本における社会的投資戦略の動き																									
10 「社会への投資」としての貧困削減																									
11 長寿社会における基盤整備としての人的資本戦略																									
12 変革の鍵としてのジェンダー平等とケア																									
13 「社会への投資」を支える税の構想																									
14 「社会への投資」にむけた総合戦略																									
15 全体のまとめー「社会への投資」の可能性																									
ラーニング	A:知識の定着・確認	大学院の授業であるので、受講生の報告と議論を中心にして進める。														工夫	その 他の								
	B:意見の表現・交換																								
	C:応用志向																								
	D:知識の活用・創造																								
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修																								
	事後 学修																								
教科書	三浦まり編『社会への投資』岩波書店、2018年																								
参考書	適宜指示する。																								
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10													
	授業における報告と討論と最終レポート	100%																							
注意事項																									
備考																									
リンク																									
	URL																								

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名) 社会保障政策特論(社会保障政策特論)					区分・【新主題】/(分野) マクロ領域															
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																
選択必修	2	1,2	福祉社会科学 研究科	後期	木7	氏名 松本由美 E-mail matsumoto-yumi@oita-u.ac.jp 内線 6097																
授業の概要	今日、すべての人が安心して生活を営んでいく上で社会保障の役割はますます重要なものとなっている。一方で、少子高齢化の進展や社会経済状況の変化を背景として、社会保障はさまざまな問題に直面している。この授業では、社会保障の現状と課題を理解するとともに、今後の社会保障政策のあり方を考える。																					
具体的な到達目標										DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 社会保障制度の現状を理解する。																						
目標2 社会経済状況の変化を踏まえ、政策課題を多面的に把握する。																						
目標3 今後の社会保障政策のあり方について、自らの考えを持つ。																						
目標4																						
目標5																						
目標6																						
目標7																						
目標8																						
目標9																						
目標10																						
授業の内容																						
1 授業の進め方等についてのガイダンス																						
2 医療保障制度の現状と課題																						
3 医療保障制度の現状と課題																						
4 医療保障制度の現状と課題																						
5 介護保険制度の現状と課題																						
6 医療・介護政策のあり方																						
7 年金制度の現状と課題																						
8 年金制度の現状と課題																						
9 年金制度の現状と課題																						
10 年金制度の現状と課題																						
11 年金制度のあり方																						
12 社会保障政策のあり方																						
13 社会保障政策のあり方																						
14 社会保障政策のあり方																						
15 まとめ																						
ラーニング ポイント チェック シート グループ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造		報告やディスカッションを通じて、社会保障に関する知識や理解を深める。					工夫 その 他の														
時間外学習 の内容と時 間の目安	準備 学修	各テーマに関する報告を割り当てるので、報告者はテキストの該当部分の概要を作成するとともに、自分の見解を示すことができるよう準備を行うこと。その他の参加者もテキストを熟読し、自分の見解と疑問点をまとめておくこと(30h)。																				
	事後 学修	毎回の授業後は、報告やディスカッションを踏まえて自らの理解を確認し、必要に応じて追加的な学習を行い、知識を体系的に整理しておくこと(15h)。																				
教科書	授業の中で適宜指定する。																					
参考書	土田武史編著『社会保障論』成文堂、2015年 池上直己『日本の医療と介護 歴史と構造、そして改革の方向性』日本経済新聞出版社、2017年 駒村康平『日本の年金』岩波新書、2014年																					
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10										
	授業への参加の積極度	50%																				
	報告内容	50%																				
注意事項																						
備考																						
リンク	URL																					

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)																			
		福祉法制・権利擁護特論(福祉法制・権利擁護特論)					マクロ領域																			
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																				
選択必修	2		福祉社会科学 研究科	前期	月7	氏名 藤村賢訓 E-mail masa-f@oita-u.ac.jp 内線 7703																				
授業の概要	社会福祉基礎構造改革は、社会保障・社会福祉法制の基盤思想に大きな変化をもたらした。すなわち措置から契約への大きな流れにしたがい、各人に広く自己決定可能な機会を提供する一方、結果としての自己責任主義が強調されてきている。本演習では、福祉に関する個別紛争事例を題材に、その裁判の裏に潜む制度的課題を検討し、福祉法制全体の現状と課題を考えたい。																									
具体的な到達目標																DP等の対応(別表参照)										
目標1	福祉政策・法制度の全体的な動向について理解する。															1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標2	個別紛争事例を通じて、何が問題となるかを理解する。																									
目標3	問題解決のための課題・方向性について考える。																									
目標4	権利擁護とは何かについて自分なりの考えを構築する。																									
目標5																										
目標6																										
目標7																										
目標8																										
目標9																										
目標10																										
授業の内容																										
1	福祉法制と紛争処理手続概要(講義)																									
2	福祉法制と紛争処理手続概要(講義)																									
3	社会福祉法制																									
4	社会福祉法制																									
5	生活保護法制																									
6	生活保護法制																									
7	児童福祉法制																									
8	老人福祉法制																									
9	障害福祉法制																									
10	年金法制																									
11	年金法制																									
12	成年後見法制																									
13	成年後見法制																									
14	被爆者援護法制																									
15	医事法制																									
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造															工夫	その他									
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修																									
	事後学修																									
教科書	資料・判例を配布します。また講義中に適宜紹介します。																									
参考書	適宜紹介します。																									
成績評価の方法及び評価割合	評価方法															割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
注意事項	報告者のみならず、参加者は事前に検討判例を読み、考えをまとめておくよう心掛けてください。本演習は積極的に議論を行います。																									
備考																										
リンク																										
	URL																									

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)														
		福祉政策特論(福祉政策特論)					マクロ領域														
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員															
選択必修	2	1	福祉社会科学 研究科	後期	水7	氏名 三好禎之 E-mail miyoshi-yoshiyuk@oita-u.ac.jp 内線 7696															
授業の概要	本講義は社会福祉の理念および実践が、社会の成熟および人権意識の高まりと相まって発展し、施策(制度)として形成された社会福祉を学習する。また、少子・高齢社会やグローバル化の進展によって、社会構造が大きく変動していくなか、現代社会における社会福祉はあらたな局面を迎えている。転換期を迎えた日本社会の実態をグローバル化の視点でとらえ、社会福祉の展望を検討する。また、地方分権化の流れを受けることからローカリズムによる社会福祉の潮流を探索する。																				
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	ブレインストーミングによって現代社会の福祉問題・課題を抽出し、分類できる																				
目標2	親和図法によって、情報を整理し視覚化できる																				
目標3	ブレインストーミング、親和図法によって現代社会の福祉問題・課題を分析できる																				
目標4	福祉政策を分析し、具体的計画を立案できる																				
目標5	地域の福祉政策を創出できる																				
目標6																					
目標7																					
目標8																					
目標9																					
目標10																					
授業の内容																					
1 (ブロック1) オリエンテーション: 講義の進め方と目的を説明する																					
2 福祉の対象と課題 現代社会における福祉の対象と問題群 - : アイスブレイク、現代社会の実態を判別し分類できる																					
3 福祉環境の変化1 - 人口減少社会と少子・高齢社会の到来 - : ブレインストーミング、少子・高齢社会の実態を理解し問題・課題が抽出できる。(課題1)																					
4 福祉環境の変化2 - 地方分権化にみる福祉政策 - : ブレインストーミング、地方分権化の実態を理解し問題・課題が抽出できる。(課題2)																					
5 福祉環境の変化3 - 社会福祉基礎構造改革と福祉政策の展開 ブレインストーミング、社会福祉基礎構造改革の問題・課題を抽出できる(課題3)																					
6 (ブロック2) 福祉の思想と理念: 福祉の思想と理念を評価する																					
7 福祉の政策と計画1 福祉政策と計画1 : マンダラート技法によって福祉政策を抽出できる(課題4)																					
8 福祉の政策と計画2 福祉政策と計画2 - : マンダラート技法の結果を説明できる(課題5)																					
9 福祉の政策と計画3 福祉政策と計画3 - : 福祉政策(スコープモデル管理)を提案できる(課題6)																					
10 (ブロック3) 福祉コミュニティ政策: 福祉コミュニティ政策を説明できる																					
11 住民参加と組織化 - ソーシャルキャピタルの効用を評価する																					
12 居住福祉のまちづくり - 居住福祉のまちづくりを提案できる																					
13 地域包括ケアシステムとネットワークづくり: 地域福祉ケアシステムとネットワークの問題・課題を抽出できる																					
14 福祉推進組織と多面的サービス供給: 福祉推進組織と多面的サービス供給の政策を分析できる																					
15 福祉推進組織と多面的サービス供給: 福祉推進組織と多面的サービス供給の政策を分析できる																					
ラ ー ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認	演習、グループワーク、省察ミニッツペーパー ブレインストーミング、マンダラート技法 スコープモデル管理				工 夫	そ の 他 の	アイスブレイク、動画の活用													
時間外学修の内容と時間の目安	準備 学修	配布資料や参考文献等の情報に応じて予習する。(15h)ブレインストーミング(3h)																			
	事後 学修	講義で学習したことを活かし、学びを深める。課題1、2、3作成(20h)マンダラート技法(5h)スコープモデル管理(5h)福祉政策の文書化(4h)																			
教科書	教科書は指定しない 講義中に配布するプリントや小冊子を使用する																				
参考書	講義内で提示する																				
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10									
	演習課題(課題1、課題2、課題3)	30%																			
	ブレインストーミング、マンダラート技法(課題4)	10%																			
	マンダラート結果(課題5)	10%																			
	スコープモデル管理法(課題6)	10%																			
	福祉政策課題の文章化(課題7)	30%																			
	最終課題	10%																			
すべての課題の合格を単位取得の条件とする																					
注意事項																					
備考																					
リンク																					
	URL																				

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名) 人権の歴史特論(The History of Human Rights)					区分・【新主題】/(分野) マクロ領域													
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
選択必修	2	1・2	福祉社会科学 研究科	後期	水6	氏名 八木 直樹 E-mail n-yagi@oita-u.ac.jp 内線 7976														
授業の概要	「人権」とは、人が生まれながらにして持っている権利であり、福祉に関わる者にとっては絶えず意識しなければならない重要な問題です。しかし、「人権」とは何なのかは、決して自明のことではありません。本授業では、「人権の歴史」に関わる様々な文献を輪読することにより、「人権」とは何なのか、について受講生とともに考えていきます。																			
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)														
目標1	文献を精読し、内容を要約し論点を整理することができる。					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
目標2	過去の社会と現代社会における「人権」の持つ意味の相違点について説明することができる。																			
目標3	時代を問わず変化しない「人権」について、自分の考えを他者に説明することができる。																			
目標4																				
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1	ガイダンス																			
2	子どもに関する論文の輪読とその議論 1																			
3	子どもに関する論文の輪読とその議論 2																			
4	老人観に関する論文の輪読とその議論 1																			
5	老人観に関する論文の輪読とその議論 2																			
6	家族に関する論文の輪読とその議論 1																			
7	家族に関する論文の輪読とその議論 2																			
8	孤児・捨て子に関する論文の輪読とその議論 1																			
9	孤児・捨て子に関する論文の輪読とその議論 2																			
10	「いのち」に関する論文の輪読とその議論 1																			
11	「いのち」に関する論文の輪読とその議論 2																			
12	「いのち」に関する論文の輪読とその議論 3																			
13	「死」に関する論文の輪読とその議論 1																			
14	「死」に関する論文の輪読とその議論 2																			
15	「死」に関する論文の輪読とその議論 3																			
ラ ー ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認	・毎回、受講生全員が輪読する論文内容を報告した上で、ディスカッションを行います。													工 夫 そ の 他 の	なし。				
時間外 学修 の内容と 時間 の目安	準備 学修	輪読する文献を精読した上で、入念な報告の準備をしてください(30h)。																		
	事後 学修	ディスカッションの論点を各自で整理し、「人権」について考えてください(10h)。																		
教科書	使用しません。輪読する文献のコピーを配布します。																			
参考書	講義中に適宜紹介します。																			
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10								
	報告内容と議論への参加状況	100%																		
注意事項	遅刻・欠席をする場合は、授業が始まるまでに必ず連絡して下さい。																			
備考	受講人数によっては、講義の進め方を変更する場合があります。																			
リンク																				
	URL																			

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名) 生と死の哲学特論(Philosophy of Life and Death)					区分・【新主題】/(分野) マクロ領域																		
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																			
選択必修	2	1,2	福祉社会科学 研究科	前期	金6	氏名 黒川 勲 E-mail kurokawa-isa@oita-u.ac.jp 内線 7525																			
授業の概要	現代日本社会にとって社会福祉のウエイトは次第に大きくなりつつあります。社会福祉を考察するには、福祉の概念、社会福祉の現状、患者・家族・社会・社会福祉従事者及び医療従事者の相互関係、生命の尊厳、生命倫理等、多くの検討すべき側面・課題があると考えられます。本授業では、こうした課題を人間の「生と死」の観点から根本的に捉えることを契機とし、「人格性」、「生と死」と福祉の関係を追究することを核として、解決への方法を考察します。その際、生命倫理学の視座を射程に入れて論ずるとともに、内外の文献の精査を行い、考察することで専門的知識とともに高度な研究能力を養成します。																								
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	各主題を「生と死」の人間における全体的観点から見直すとともに、専門的知識を習得する。																								
目標2	各主題を根源的・現象的観点の往還による、哲学的・倫理的視点から考察することができる。																								
目標3	各主題について多角的な視点から考察し、論理的に表現できる。																								
目標4																									
目標5																									
目標6																									
目標7																									
目標8																									
目標9																									
目標10																									
授業の内容																									
1 生命倫理の課題(生に関する課題)																									
2 生命倫理と倫理理論(義務論)																									
3 生命倫理と倫理理論(功利主義・徳倫理)																									
4 生命の尊厳の根本的基盤-人格と自律																									
5 自己決定の条件、自己決定の限界																									
6 インフォームド・コンセント																									
7 生殖技術-生殖技術と倫理問題																									
8 医療従事者・患者関係																									
9 生命倫理の課題(死に関する課題)																									
10 安楽死・尊厳死																									
11 終末期医療																									
12 遺伝子技術																									
13 遺伝子技術-優生学的問																									
14 移植医療-脳死と移植医療																									
15 「自由」・「人格」の概念再考																									
ラ ア イ ク ニ テ ン イ グ プ	A:知識の定着・確認		本授業は基礎資料を基にした学生による発表と議論を中心に進めます。また議論の際、教員が一方向的に話すだけにならないように、学生に意見を述べてもらう場を頻りに設けます。												工 夫 そ の 他 の										
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	本授業は基礎資料を基にした学生による発表と議論を中心に進めます。各自の報告資料の作成のために、文献調査・分析・資料作成を行って下さい。(15h)																							
	事後学修	各自及び他の学生の報告への積極的な参加とともに、事後に各自の関心のあるテーマに関連づけた発展的な取り組みを行って下さい。(15h)																							
教科書	テキストは受講者の関心を参考にして決定します。																								
参考書	参考文献については適宜、授業内において示します。																								
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10													
	報告資料の作成	40%																							
	報告の実施	30%																							
	議論への参加	30%																							
注意事項	特になし																								
備考	特になし																								
リンク																									
	URL																								

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名) 福祉サービスシステム特論(福祉サービスシステム特論)					区分・【新主題】/(分野) メゾ領域																								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																									
選択必修	2	1, 2	福祉社会科学 研究科	後期	月7	氏名 久木元美琴 E-mail kukimoto@oita-u.ac.jp 内線 7685																									
授業の概要	少子高齢化の進展を背景として、子どもを産み育てやすい環境の整備や子育て支援の充実が、我が国における喫緊の政策課題となっている。保育をめぐる政策ニーズと充足のあり方は、その社会における経済システムや家族・女性労働の位置付けに強く規定される。この講義では、欧米先進国やアジアにおける家族や女性労働が置かれている状況について学び、現代日本の子育て支援のあり方について議論・検討する。																														
具体的な到達目標											DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10						
目標1 保育サービス供給や子育て支援に関する国内外の政策および関連する研究動向を理解し、自身の言葉で説明できる。																															
目標2 様々な空間スケールから、サービス需給の空間性と地域性を捉え既存の政策・施策の有効性や課題を検討することができる。																															
目標3																															
目標4																															
目標5																															
目標6																															
目標7																															
目標8																															
目標9																															
目標10																															
授業の内容																															
1 ガイダンス																															
2 福祉レジームと子育て支援の政策動向																															
3 福祉レジームと子育て支援の政策動向																															
4 福祉レジームと子育て支援の政策動向																															
5 <両立>をめぐる生活空間と時間																															
6 <両立>をめぐる生活空間と時間																															
7 欧米先進国における仕事・家庭・ケアの両立戦略																															
8 欧米先進国における仕事・家庭・ケアの両立戦略																															
9 アジアの家族と保育供給																															
10 アジアの家族と保育供給																															
11 地域活性化と子育て支援																															
12 地域活性化と子育て支援																															
13 日本における家族と女性労働 生活空間の地域性																															
14 日本における家族と女性労働 生活空間の地域性																															
15 まとめ																															
ラーニング	A:知識の定着・確認	学生によるプレゼンテーションや議論の時間を設ける。				工夫	その他の 報道記事や映像資料等を活用し理論的な側面と現実の社会問題とを結びつけて考えられるようにする。																								
	B:意見の表現・交換																														
	C:応用志向																														
	D:知識の活用・創造																														
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	プレゼンテーション準備、参考文献や関係資料をもとに授業内容に即した情報収集を行う(10h)。																													
	事後学修	参考文献・配布資料を用いた復習、プレゼンテーションのフィードバックの確認と改善(10h)。																													
教科書	ガイダンスの際、受講者と相談して決定する。																														
参考書	『保育・子育て支援の地理学』久木元美琴, 明石書店, 2016年																														
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10																			
	平常点(議論への参加)	40%																													
	プレゼンテーション	60%																													
注意事項	度重なる無断欠席や遅刻には厳正に対処します。																														
備考	資料として英語書籍を用いることがあります。																														
リンク																															
	URL																														

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)									
		地域福祉政策特論()					メゾ領域									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択必修	2	1,2	福祉社会科学 研究科	前期	水6	氏名 川村 岳人 E-mail 内線										
授業の概要	この授業のねらいは、政策科学的な視点に基づき地域福祉政策や計画の意義や役割を理解し、今日の課題を考えることです。近年、このテーマは、経済構造の変化によって社会的な課題を解決する「空間的単位」が小さくなり、福祉問題の多くが地域ごとにローカルに読み解くことが求められていることと関連して、重要性を増しています。															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)										
目標1	社会福祉政策や計画の概念を説明できる。					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標2	生活課題の地域性に対応した地域福祉政策の意義を説明できる。															
目標3	生活課題の地域性に対応した地域福祉政策の形成手法を採用できる。															
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1	社会福祉政策の概念															
2	福祉への社会的対応															
3	福祉ニードと供給システム															
4	社会福祉政策の課題 社会的排除															
5	社会福祉政策の課題 社会的孤立															
6	地域福祉政策の歴史															
7	地域福祉政策とソーシャル・キャピタル															
8	政策としての社会福祉計画															
9	社会福祉計画の概念															
10	社会福祉計画の類型															
11	社会福祉計画の構成要素															
12	地域福祉計画 地域福祉計画とは															
13	地域福祉計画 ローカル・ガバナンスと地域福祉															
14	地域福祉政策・計画の事例検討															
15	地域福祉政策・計画の事例検討															
ラ イ ク ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造				集団討議およびプレゼンテーションを導入する。						工夫 その 他の	授業開始時等にアイスブレイクを行う。				
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修	配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(15h)。														
	事後 学修	配付資料や参考文献等を用いて復習する。														
教科書	必要に応じて、講義内容に即したプリント等を配付する。															
参考書	坂田周一(2000)『社会福祉政策(第3版)』有斐閣. 定藤丈弘・坂田周一・小林良二編(1996)『社会福祉計画』有斐閣.															
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10				
	集団討議	50%														
	プレゼンテーション	50%														
注意事項	集団討議の内容や受講者の理解度等に応じてシラバスの内容は順番が変わったり、一部が変更となったりする場合があります。															
備考																
リンク																
	URL															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名) 市民参加と福祉社会特論(Acitive Citizen and Welfare society)					区分・【新主題】/(分野) メゾ領域														
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員															
選択必修	2		福祉社会科学 研究科	前期	月5	氏名 豊島 慎一郎 E-mail stoy@oita-u.ac.jp 内線															
授業の概要	本講義は、現代日本におけるNPO/ボランティア等の市民参加(社会参加)に関する社会学的研究を踏まえて、政策・実践的観点からこれからの福祉社会の構築について議論する。																				
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10				
目標1	市民参加に関する社会学的研究に対する理解を深める。																				
目標2	市民参加に関する政策提言に貢献できる応用力を修得する。																				
目標3	報告および議論を通して理解を深める。																				
目標4																					
目標5																					
目標6																					
目標7																					
目標8																					
目標9																					
目標10																					
授業の内容																					
1	オリエンテーション																				
2	受講生の研究テーマに関する報告																				
3	報告および議論1																				
4	報告および議論2																				
5	報告および議論3																				
6	報告および議論4																				
7	報告および議論5																				
8	報告および議論6																				
9	報告および議論7																				
10	報告および議論8																				
11	報告および議論9																				
12	報告および議論10																				
13	報告および議論11																				
14	報告および議論12																				
15	期末レポートに関する報告および提出																				
ラ ア イ ク ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造		受講生は毎回、指導教員が指示した文献について要約および内容に関するコメントを報告し(要レジュメ)、それを基に議論を行う。										工 夫 そ の 他 の								
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修 事後 学修																				
教科書	なし。																				
参考書	適宜指示する。																				
成績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10									
	報告および議論	50%																			
	期末レポート	50%																			
注意事項	社会学の基礎を修得している者の受講が望ましい。 本講義の内容について、修士論文のテーマと関連する者の受講が望ましい。																				
備考																					
リンク																					
	URL																				

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名) 非営利組織のマーケティング特論(Marketing for Nonprofit Organizations)					区分・【新主題】/(分野)																		
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																			
選択必修	2	1, 2	福祉社会科学 研究科	後期	月5	氏名 松隈久昭(経済) E-mail himatsu@oita-u.ac.jp 内線 7680																			
授業の概要	少子高齢化社会では、高齢者、障害者を含めた生活者のニーズを分析し、効果的に福祉、医療、保健サービスを提供することが必要である。講義では、そのような生活者のニーズを分析し、生活者満足度を高める方法を検討する。また、福祉施設や病院等の非営利組織のマーケティングを説明する。																								
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 非営利組織のマーケティングについて理解すること。																									
目標2 また、非営利組織の利用者満足の分析ができるようにすること。																									
目標3																									
目標4																									
目標5																									
目標6																									
目標7																									
目標8																									
目標9																									
目標10																									
授業の内容																									
1 非営利組織とマーケティングの定義																									
2 生活者のニーズと満足度の分析																									
3 生活者のニーズと満足度の分析																									
4 非営利組織の経営方法																									
5 非営利組織の経営方法																									
6 サービス・マーケティング																									
7 サービス・マーケティング																									
8 サービス・マーケティング																									
9 価格設定のマーケティング																									
10 価格設定のマーケティング																									
11 広報・広告の方法																									
12 広報・広告の方法																									
13 ソーシャル・マーケティング																									
14 事例研究																									
15 事例研究																									
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造					レポートによる。	工夫	その他の	近年の事例研究も紹介する。																
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修																								
	事後学修																								
教科書	未定。																								
参考書	授業時に指定する。																								
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10													
	レポート	100%																							
注意事項	受講する前に、必ずガイダンスに参加すること。																								
備考																									
リンク																									
	URL																								

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名) マネジメント特論(Management Theory)					区分・【新主題】/(分野) メゾ領域													
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
選択必修	2		福祉社会科学 研究科	前期	火5	氏名 本谷 るり E-mail motoya@oita-u.ac.jp 内線 7707														
授業の概要	複数の人々が集まり、共通の目標を達成しようとするとき、そこに組織が成立します。それは企業のみならず、あらゆる組織において同様です。組織を成立させ継続させていくために必要なメカニズムを理解し、組織の抱える課題について議論できるようになることがねらいです。																			
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)														
目標1 企業組織のしくみやマネジメントに関わる知識を身につける						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
目標2 実際のマネジメントについて論理的に分析できる																				
目標3																				
目標4																				
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1 ガイダンス																				
2 組織とは(1)組織の本質、機能																				
3 組織とは(2)組織のとらえ方																				
4 組織とは(3)企業の組織																				
5 組織を分析する枠組み(1)古典的組織論																				
6 組織を分析する枠組み(2)現代的組織論																				
7 組織を分析する枠組み(3)最近の議論																				
8 組織の構造(1)																				
9 組織の構造(2)																				
10 組織のデザイン																				
11 組織と人との関わり(1)モチベーション																				
12 組織と人との関わり(2)リーダーシップ																				
13 組織文化、経営理念																				
14 組織と環境との関わり(1)ガバナンス、CSR																				
15 組織と環境との関わり(2)戦略																				
ラ ア イ ク ニ テ ン イ ゲ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造					講義は、前半と後半に分けて行います。前半は知識や理論の確認です。後半はそれに関わる議論をみなで行います。議論には準備学習が必要ですので、予習の上授業に臨んでください。					工 夫 そ の 他 の									
時間外学修の内容と時間の目安	準備 講義予定の章や論文についてあらかじめ読み、不明な箇所やポイントなどをまとめておいてください。 学修 30分程度 事後 講義内容や全員での議論を踏まえて、興味のある企業や専門性の高い理論について調べたり参考文献を読んだりしましょう。 学修 30分程度																			
教科書	講義開始時に示します。																			
参考書	参考文献は該当する講義時に提示します。																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
	期末レポート	100%																		
注意事項																				
備考																				
リンク																				
	URL																			

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)														
		医療・福祉施設会計特論(Management and Accounting on Medical and Welfare Institutions)																			
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員															
選択必修	2	1, 2	福祉社会科学 研究科	前期	木5	氏名 大崎 美泉 E-mail yosaki@cc.oita-u.ac.jp 内線 7699															
授業の概要	近年、医療や福祉を取り巻く環境は急激に変化し、これらの担い手である施設の経営に大きな影響が出ています。たとえば、診療報酬のマイナス改定、ジェネリック医薬品の推奨、DPCによる包括支払制度の導入等によって、医療機関や福祉施設の経営状況はますます厳しいものとなってきました。本講義は、診療報酬の改定やDPCの導入といった医療・福祉制度全般に係わる問題から病院の原価計算システムやバランスト・スコアカードによる戦略的病院経営の展開といった個々の施設のマネジメントに係わる問題まで、医療・福祉に関する現代的なテーマの中から適当なものを受講生と相談の上で選択し、議論していくこととします。																				
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	半年間の講義を通じて、医療・福祉施設のマネジメントに関する基礎的な知識を習得することができます。																				
目標2																					
目標3																					
目標4																					
目標5																					
目標6																					
目標7																					
目標8																					
目標9																					
目標10																					
授業の内容																					
1	ガイダンス																				
2	医療制度改革の実施																				
3	医療制度改革の展開方向																				
4	病院原価計算の展開(費目別原価計算)																				
5	病院原価計算の展開(患者別原価計算)																				
6	医療機関の経営戦略(その1)																				
7	医療機関の経営戦略(その2)																				
8	医療サービスの質とEBM																				
9	医療サービスの標準化																				
10	クリニカルパス																				
11	電子カルテシステム																				
12	医療情報システムの展開																				
13	医療のバランスト・スコアカード(その1)																				
14	医療のバランスト・スコアカード(その2)																				
15	まとめ																				
ラ ブ ク ニ テ ン イ グ 	A:知識の定着・確認																				工 夫 そ の 他 の
	B:意見の表現・交換																				
	C:応用志向																				
	D:知識の活用・創造																				
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修																				
	事後 学修																				
教科書	以下の文献を考えていますが、受講生と相談して最終的に決定します。 ・池谷明隆編著(2014)『MBA流ケースメソッドで学ぶ 医療経営 入門』日経メディカル ・堺常雄・高橋淑郎編著(2013)『病院経営のイノベーション』建帛社																				
参考書	同上																				
成績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10									
	授業への参加度	30%																			
	報告内容	40%																			
	討論への参加度	30%																			
注意事項	積極的な発言を期待します。																				
備考																					
リンク	URL																				

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)																																											
		児童・家庭ソーシャルワーク特論()					ミクロ領域																																											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																																												
選択必修	2	1,2	福祉社会科学 研究科	前期	火7	氏名 相澤 仁 E-mail 内線																																												
授業の概要	児童虐待、少年非行、DVなどの子どもや家庭の問題の現状と課題について取り上げ、その具体的な事例についてのケアマネジメントを行い、子どもやその家庭(障害者や高齢者を含む)を対象にした包括的なファミリーソーシャルワークについて演習を通して学ぶ。																																																	
具体的な到達目標																DP等の対応(別表参照)																																		
目標1	ケースについてのアセスメント・プランニングなどケアマネジメント及び包括的なファミリーソーシャルワークについての基本															1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																									
目標2	包括的なファミリーソーシャルワークを展開する上で、必要な事業など社会資源のあり方について学ぶ。																																																	
目標3																																																		
目標4																																																		
目標5																																																		
目標6																																																		
目標7																																																		
目標8																																																		
目標9																																																		
目標10																																																		
授業の内容																																																		
1	ガイダンス																																																	
2	児童虐待の現状と課題																																																	
3	少年非行の現状と課題																																																	
4	社会的養護を中心にした児童・家庭福祉の現状と課題																																																	
5	子どもの権利擁護																																																	
6	子どもの権利擁護																																																	
7	ケアマネジメント																																																	
8	ケアマネジメント																																																	
9	包括的なファミリーソーシャルワーク																																																	
10	包括的なファミリーソーシャルワーク																																																	
11	ケースカンファレンス・チームアプローチ																																																	
12	ケースカンファレンス・チームアプローチ																																																	
13	具体的な事例検討																																																	
14	社会資源の開発・活用																																																	
15	まとめ																																																	
ラ イ ク ニ テ ン イ グ	A:知識の定着・確認										B:意見の表現・交換										C:応用志向										D:知識の活用・創造										工 夫 そ の 他 の									
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修																事後学修																																	
教科書																																																		
参考書	相澤仁編集代表「やさしくわかる社会的養護 全7巻」明石書店 相澤仁、林浩康編「社会的養護」中央法規																																																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法															割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10																								
注意事項																																																		
備考																																																		
リンク																																																		
	URL																																																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名) 障害者ソーシャルワーク特論(障害者ソーシャルワーク特論)					区分・【新主題】/(分野) ミクロ領域																								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																									
選択必修	2		福祉社会科学 研究科	後期	水6	氏名 廣野俊輔 E-mail hirono-shunsuke@oita-u.ac.jp 内線 7550																									
授業の概要	障害者をめぐるソーシャルワークを取り巻く環境や課題について理解し、自分なりの見解をもつことができるようになること。																														
具体的な到達目標											DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10						
目標1 障害者ソーシャルワークを取り巻く制度の変化を理解する																															
目標2 障害者ケアマネジメントの課題を理解する																															
目標3 当事者中心のソーシャルワークの可能性と困難を理解する																															
目標4																															
目標5																															
目標6																															
目標7																															
目標8																															
目標9																															
目標10																															
授業の内容																															
1 基礎的事項の振り返り																															
2 基礎的事項の振り返り																															
3 基礎的事項の振り返り																															
4 基礎的事項の振り返り																															
5 基礎的事項の振り返り 教科書の輪読																															
6 教科書の輪読																															
7 教科書の輪読																															
8 教科書の輪読																															
9 教科書の輪読																															
10 教科書の輪読																															
11 教科書の輪読																															
12 教科書の輪読																															
13 教科書の輪読																															
14 講義のまとめ																															
15 講義のまとめ																															
ラーニング ポイント ニテ ィ ン グ	A:知識の定着・確認	講義は単に教員が話すだけでなく、ディスカッションを取り入れたものとする。				工 夫 そ の 他 の																									
	B:意見の表現・交換	また、各学生に発表をしてもらいながら講義をすすめる。																													
	C:応用志向																														
	D:知識の活用・創造																														
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修																														
	事後 学修																														
教科書	講義中に担当文献を指定する。																														
参考書																															
成績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10																			
	講義内における発表	80%																													
	講義における発言	20%																													
注意事項																															
備考																															
リンク	URL																														

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名) 精神保健ソーシャルワーク特論(精神保健ソーシャルワーク特論)				区分・【新主題】/(分野) ミクロ領域											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択必修	2	1	福祉社会科学 研究科	後期	月6	氏名 橋本美枝子 E-mail hmieko@oita-u.ac.jp 内線 7604											
授業の概要	ソーシャルワークの援助対象には、みずから助けを求めない人、解決への意欲が低い人は珍しくない。とりわけ、アルコール依存など嗜癮問題をもつ人の場合、周囲や援助者からも「困難」「厄介」「絶望的」と否定的に見なされ、ますます力を奪われがちである。本授業では、アルコール問題を例としながら、対象者が動機づけを高めることを助ける「動機づけ面接法」を中心に援助のあり方について考察する。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 アルコール依存症を含む嗜癮問題に関する基本的な知識の修得																	
目標2 アルコール問題への介入方法に関する批判的検討を通して、クライアントの動機づけを高める意義について考察を深める。																	
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 アルコール依存症(嗜癮)に関する知識の共有																	
2 アルコール依存症への介入方法の検討																	
3 総括																	
4																	
5																	
6																	
7																	
8																	
9																	
10																	
11																	
12																	
13																	
14																	
15																	
ラーニング ポイント チェック シート グループ	A:知識の定着・確認								工 夫 そ の 他 の								
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修																
	事後 学修																
教科書	ウィリアム・R.ミラー、ステファン・ロールニック『動機づけ面接法(基礎・実践編)』,星和書店																
参考書	I・K・バーグ, N・H・ロイス『解決へのステップ:アルコール・薬物乱用治療へのソリューション・フォーカスト・セラピー』,金剛出版.																
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10					
注意事項	本講義で取り上げる「動機づけ面接法」は、アルコール依存症を事例とするが、服薬やカロリー制限など自己管理が必要な精神疾患や生活習慣病を抱えている人への援助にも有効である。精神保健に関する基礎知識を備えていなくとも、理解可能な内容となるように工夫している。																
備考	なし																
リンク																	
	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名) 医療ソーシャルワーク特論(医療ソーシャルワーク特論)					区分・【新主題】/(分野) ミクロ領域													
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
選択	2	1,2	福祉社会科学 研究科	後期	木6	氏名 上白木 悦子 E-mail 内線														
授業の概要	保健医療や医療ソーシャルワークにおける基本原則・理論や研究課題を理解する。 年度ごとに設定するテーマに基づき、文献概要のレジュメや事例等に基づいた報告と討論を中心に講義を展開する。																			
具体的な到達目標											DP等の対応(別表参照)									
目標1 保健医療や医療ソーシャルワークにおける基本原則・理論や研究課題を理解し、説明する。											1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標2 自己の価値観を大切にしつつ、価値観が異なる他者と対話できる視点を養い、実践する。																				
目標3																				
目標4																				
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1 オリエンテーション/本年度テーマ(医療方針の決定に関わるソーシャルワーカーの調整・支援)に基づいた文献リストを配布し、抄読のスケジュールを決める。																				
2 本年度テーマに関連する視聴覚教材(A氏の緩和ケア・終末期医療における意思決定を通して1)に基づき、出席者全員で討論を行う。																				
3 本年度テーマに関連する視聴覚教材(A氏の緩和ケア・終末期医療における意思決定を通して2)に基づき、出席者全員で討論を行う。																				
4 報告担当者による文献概要のレジュメをもとに、出席者全員で討論を行う。(医療ソーシャルワーカーの業務継続に関する文献)																				
5 報告担当者による文献概要のレジュメをもとに、出席者全員で討論を行う。(ソーシャルワーカーの役割に関する意識に関する文献)																				
6 報告担当者による文献概要のレジュメをもとに、出席者全員で討論を行う。(救命救急センターにおける医療ソーシャルワーカーの役割に関する文献)																				
7 報告担当者による文献概要のレジュメをもとに、出席者全員で討論を行う。(特定機能病院における医療ソーシャルワーカーの役割に関する文献)																				
8 報告担当者による文献概要のレジュメをもとに、出席者全員で討論を行う。(医療ソーシャルワーカーの自己イメージに関する文献)																				
9 報告担当者による文献概要のレジュメをもとに、出席者全員で討論を行う。(認知症当事者の思いに関する研究に関する文献)																				
10 報告担当者による文献概要のレジュメをもとに、出席者全員で討論を行う。(英語文献を予定)																				
11 報告担当者による文献概要のレジュメをもとに、出席者全員で討論を行う。(英語文献を予定)																				
12 報告担当者による文献概要のレジュメをもとに、出席者全員で討論を行う。(英語文献を予定)																				
13 事例に基づき、出席者全員で討論を行う。(地域包括ケアシステムにおける医療ソーシャルワーカーの役割に関する事例)																				
14 事例に基づき、出席者全員で討論を行う。(地域包括ケアシステムにおける医療ソーシャルワーカーの役割に関する事例)																				
15 まとめ																				
ラ ッ ク ニ テ ィ グ レ ブ	A:知識の定着・確認	時間外学修 発表、討論				工 夫 そ の 他 の														
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	テーマに関連する文献(英語論文を含む)をできるだけ多く読み、文献概要のレジュメを作成してください。またメディア等を通じて保健・医療をめぐる日本また世界の現状と課題に目を向けてみてください。(15h)																		
	事後学修	講義を通じて得た学びを振り返り、またメディア等を通じて関連する保健・医療をめぐる日本また世界の現状と課題に関心を寄せてください。(15h)																		
教科書	教科書は指定しない。																			
参考書	1. 社会福祉士養成講座編集委員会編. 保健医療サービス. 中央法規, 最新年. 2. 岩淵豊. 日本の医療. 中央法規, 2015. 3. 財団法人 厚生統計協会. 国民衛生の動向, 最新年.																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
	システマティック レビューを踏まえたレジュメを作成することができる。	25%																		
	クリティカル シンキングおよび論理的思考を踏まえた解釈をすることができる。	25%																		
	レジュメに基づいた報告及び互いの報告について討論を行う。	25%																		
	健康福祉の実践の場における諸課題に対応するための基礎力を身につけることができる	25%																		
注意事項	医療ソーシャルワークの諸課題について、自らの関心に引き寄せて考えていただければと思います。 講義内容と実践の場の現状を比較し、各自、実務のあり方を検討してください。																			
備考																				
リンク	URL																			

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)														
		自治体福祉行政の現在()																			
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員															
選択必修	1	1,2	福祉社会科学 研究科	前期集中	他	氏名 西岡 隆(厚生労働省年金局企業年金個人年金課基金数理室長) E-mail 内線															
授業の概要	子どもからお年寄りまでが地域で安心して暮らしていくために必要な自治体の福祉行政の最新の状況を学ぶ。各施策ごとに関連する国の制度改正の動向や統計データをみて、その施策の課題を明らかにした上で、具体的な自治体(白杵市)の事例を用いて、その課題に対する解決方法を見出す。授業の参加者には、福祉行政をわがごととして捉え、自分の住む自治体、地域であれば、何が課題であり、その課題解決のために何が必要かを授業を通して一緒に考えて、さらには、人口減少と少子高齢化が進む地域において、持続可能な地域づくりとは何かを考えることを目的とする。																				
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 我が国の少子高齢化の状況と社会保障制度の課題を列挙できる																					
目標2 医療や介護などに関する統計データをみて、そこから得られる政策課題が何かを提案できる																					
目標3 自治体が行う福祉行政のうち、最も関心が高い分野が何かを選択し、その分野の課題解決の方法を授業で発表できる																					
目標4 事例として紹介された福祉行政について、長所・短所を判断し、自分の住む地域における取組案を提案できる																					
目標5 人口減少と少子高齢化が進む我が国の各地域において持続可能な地域づくりのために何が必要か提案できる																					
目標6																					
目標7																					
目標8																					
目標9																					
目標10																					
授業の内容																					
1 「少子高齢化の実態とその受け止め方、介護保険制度の動向」として、我が国の人口動向と社会保障制度の状況、介護保険制度の動向と地域ケア会議について解説																					
2 「認知症対策の最前線と成年後見制度」として、認知症を取り巻く状況を概観した上で、白杵市で取り組んでいる認知症対策と市民後見センターの取組を紹介																					
3 「これからの医療政策のめざすべき方向 在宅医療・医療ICT」として、我が国の医療政策の状況を概観した上で、うすき石仏ねっとを核とした取り組みを紹介																					
4 「地域コミュニティの再構築の方法」として、白杵市の地域振興協議会の取り組みととの活用事例を紹介																					
5 「高齢者が安心して暮らせるように」として、高齢化が進む地域における見守り、生活手段、移動手段の取組と課題を解説																					
6 「子育て支援策に求められているもの」として、我が国の少子化の状況を把握した上で、白杵市における子育て支援策の課題を解説																					
7 「生活困窮者自立支援制度」として、制度の解説をした上で、白杵市で国のモデル事業として取り組んできた経緯から今の状況までを紹介																					
8 「高齢社会の中で地域包括ケアシステムがめざすもの」として、全体を振り返り、基礎自治体としての市町村の役割について考察																					
9																					
10																					
11																					
12																					
13																					
14																					
15																					
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造		授業の中で、自分の住む地域の状況とその地域に対する提案を発表し、意見交換を行う。各授業後、授業で得たFACTと関心を持った取り組みについてレポート作成。					工夫	その他												
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	社会保障の諸施策を事前学習するとともに、最近の制度改正の状況などを厚生労働省HP等から調べておく(8H)。																			
	事後学修	配布した資料を振り返るとともに、自分の住む行政で行われている取り組みを確認し、さらに何が必要かを考察する(8H)。																			
教科書	適宜論文や参考資料等を配布する。																				
参考書	・西村周三監修/国立社会保障・人口問題研究所編『地域包括ケアシステム 「住み慣れた地域で老いる」社会をめざして』慶應義塾大学出版会、2013年。 ・岩淵豊『日本の医療政策 成り立ちと仕組みを学ぶ』中央法規出版、2013年。 ・権丈善一『ちょっと気になる医療と介護』勤草書房、2016年。																				
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10									
	授業内の発表・ディスカッションへの参加	10%																			
	各授業後の小レポートの作成	40%																			
	最終レポートの作成	50%																			
注意事項	< 授業日程 > 2019年 8月24日 2限~5限 2019年 8月31日 2限~5限																				
備考																					
リンク	URL																				

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)														
		福祉研究の最前線()																			
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員															
選択必修	2	1, 2	福祉社会科学 研究科	後期集中		氏名 阿部 純一 E-mail 内線															
授業の概要												社会の基本的な単位の一つである家族には、これまで社会的弱者である子どもや高齢者を保護する機能が期待され、社会保障政策においても、家族を基礎として各種制度が構築されてきた。ところが近年、家族関係が変容し、多様化する中で、これまで家族が担ってきた役割にも大きな変化が生じつつある。さらに、家族という閉鎖的な空間における暴力や虐待などは、深刻な社会問題となっている。本授業では、家族法に関する近時のトピックや制度改革を素材に、家族をめぐる基本的な法制度を理解するとともに、その現代的な諸課題の解決策を探る。具体的には、「子どもと法」「高齢者と法」「家族と責任」の三つのテーマについて講義をし、受講者との議論を通じて検討する。									
具体的な到達目標												DP等の対応(別表参照)									
目標1 家族法に関する基本的な制度を説明できる												1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標2 家族法に関する現代的な問題を分析できる																					
目標3 家族法に関する課題の解決策を提案できる																					
目標4																					
目標5																					
目標6																					
目標7																					
目標8																					
目標9																					
目標10																					
授業の内容																					
1 オリエンテーション																					
2 「家族と法」を考える基本的視点																					
3 子どもと法 : 親権制度の概要																					
4 子どもと法 : 離婚と子の福祉(離婚後の交流と養育費を中心に)																					
5 子どもと法 : 親権の制限(児童虐待への法的対応を中心に)																					
6 子どもと法 : 養子制度の概要																					
7 子どもと法 : 養子制度の課題																					
8 子どもと法 : 養子法改正																					
9 子どもと法 : 成年年齢の引下げ																					
10 高齢者と法 : 老親扶養をめぐる問題																					
11 高齢者と法 : 介護と相続																					
12 高齢者と法 : 生存配偶者の居住権																					
13 家族と責任 : 未成年者の行為と親権者の責任																					
14 家族と責任 : 認知症高齢者の行為と監督義務者の責任(JR東海事件を素材として)																					
15 授業のまとめ																					
ラ ブ ニ ン グ		A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造		グループワーク、ディベート					工 夫		そ の 他 の										
時間外学修の内容と時間の目安		準備学修		配布資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(4h)																	
		事後学修		授業で学習した内容について配布資料を用いて復習する(10h)																	
教科書		教科書は指定しない 授業中に配布するレジュメ及び資料を使用する																			
参考書		授業の中で必要に応じて適宜指示する																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法										割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	授業に対する取り組み姿勢(積極的な発言や議論への参加)										100%										
注意事項	授業日程 2019年11月16~17日 2019年度12月14~15日																				
備考																					
リンク																					
	URL																				

